

ネクスト香川「EMC講習会」のご案内

◇EMIレシーバとCISPR規格およびノイズ対策用測定器◇

かがわ EMC 技術研究会では、ネクスト香川「EMC 講習会」を下記の予定で開催します。

今回は、ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 吉本 修氏から、EMIレシーバと近年の CISPR 規格ならびにノイズ対策のための測定器についてご講演いただくと共に、「かがわ EMC 技術研究会」の古賀会長には、電気回路理論または電磁気学についてわかりやすく解説いただく予定です。

電気・電子機器の設計エンジニアや対策・評価をご担当されている技術者など EMC (電磁両立性) に関する皆様に大変参考になる内容となっており、県内では EMC に関する技術情報を得る数少ない貴重な機会ですので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

- **開催日時** 令和4年2月24日(木) 13:30~16:50
- **会場** 香川産業頭脳化センタービル (〒761-0301 高松市林町 2217 番地 15)
会場:2階「一般研修室」(受付)
- **申込方法** 申込書に必要事項をご記入の上、Eメールもしくは FAX でお申し込み下さい
- **参加費** 無料
- **対象** 一般
- **定員** 30名 (1社、1団体2名まで先着順)
- **内容**

1. 開会挨拶 (13:30~13:40)	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長 安松 延朗	
2. 講演1(演題) いろいろあって困る EMI 理論 (13:40~14:00)	かがわ EMC 技術研究会 会長 岡山大学名誉教授 古賀 隆治氏 【リモート出演】	(概要) 理論の最初にあるのはモデルであり、現象を観察し”洞察”によって作り出される。モデルに基づいて理論が展開され、現象が予測される。モデルの差違は、現象をどの程度精密に認識するかによって生まれる。
休 憩 (14:00~14:15)		
3. 講演(演題) EMIレシーバと近年の CISPR 規格 (14:15~15:15)	ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 EMC Solution Manager 吉本 修氏 【リモート出演】	(概要) EMIレシーバは、その性能が国際規格 CISPR にて定められており、無線を使った放送や通信へのノイズの影響を評価するために用いられている。その歴史と最新のトピックをご紹介します。
休 憩 (15:15~15:30)		
4. 講演(演題) ノイズ対策のための測定器 (15:30~16:45)	ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 EMC Solution Manager 吉本 修氏 【リモート出演】	(概要) 設計開発の現場において、ノイズ対策を行うための、主なノイズ発生原因の考え方や、ネットワークアナライザ等を用いた計測例をご紹介します。
5. 閉会挨拶 (16:45~16:50)	かがわEMC技術研究会 会長 岡山大学名誉教授 古賀 隆治氏	

※新型コロナウイルス感染防止のため、発熱、風邪症状のある方の参加はお控えいただきます。

感染拡大状況によっては、リモート参加に変更または中止の可能性あります。

主催: かがわ EMC 技術研究会(事務局:公益財団法人かがわ産業支援財団)

後援: 香川県

お申込み先 FAX 087-864-5331

公益財団法人かがわ産業支援財団 総務部施設管理課 平田、村井 行

E-mail next@kagawa-isf.jp TEL 087-864-5311

提出期日：令和4年2月21日(月)

ネクスト香川「EMC講習会」申込書

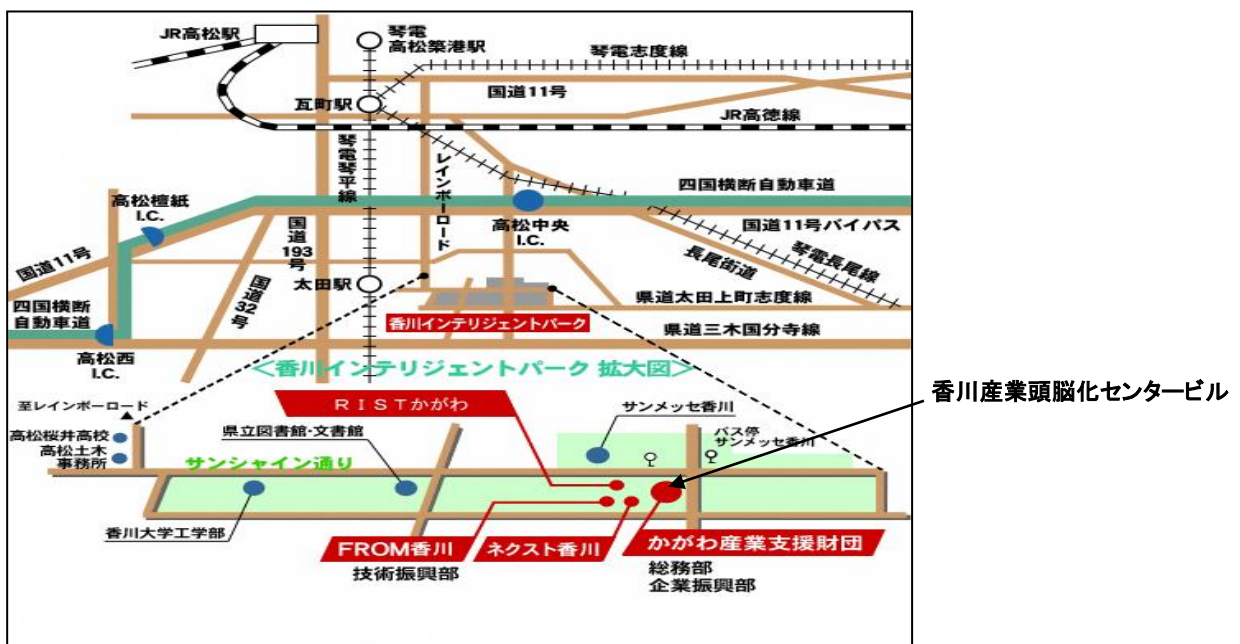
企業・団体名		
記入者氏名	TEL	
	E-mail	

参加する 参加しない (どちらかに○をお付け下さい)

当日参加者	所属・役職	氏名

注：1社または1団体2名まで、先着順で参加受け付けます。

■ 開催会場ご案内



イベント開催時のチェックリスト

開催概要

電磁放射理論の基礎、電磁ノイズ測定器の性能および規格、ノイズ対策など、EMC技術の最新情報を提供します。

イベント名

ネクスト香川「EMC」講習会

講演者 参加者

講演者：かがわEMC技術研究会会長 古賀 隆治氏
ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 吉本 修氏

参加者：県内外企業、研究機関など

開催日時

令和 4年 2月 24日(木) 13:30~16:50

開催会場

香川産業頭脳化センタービル 2階 一般研修室

会場所在地

香川県高松市林町2217-15

主催者

かがわEMC技術研究会
公益財団法人かがわ産業支援財団 (総務部)

主催者 所在地

香川県高松市林町2217-16

主催者 連絡先

(電話番号)
087-864-5311

(メールアドレス)
next@kagawa-isf.jp

収容率 (上限)

100% (※) (大声なし) 人と人が触れ合わない
程度の間隔

50% (※) (大声あり) 十分な人と人との間隔
(できるだけ2m、最低1m)

収容人数

54人

参加人数

30人

その他 特記事項

講演形式であり、質疑応答の場面を設定している。また、1机に1座席を基本として出席者の間隔を確保している。

(※) このセミナーは、国の所管省庁と連携の上定められた「カンファレンス開催ガイドライン」(公益社団法人日本青年会議所策定)に沿って実施します。

感染防止策チェックリスト

基本的な 感染防止

イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。

※5,000人かつ収容率50%超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

①飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底



【大声なしの場合】
飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（品質の確かな、できれば不織布）の正しい着用や大声（※）を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる。

（※）大声の定義を「観客等が、①通常よりも大きな声量で、②反復・継続的に声を発すること」とする。

【大声ありの場合】
「大声なしの場合」の「大声」を「常時大声を出す行為」と読み替える。

②手洗、手指・施設消毒の徹底



こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す（会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施。）。



主催者側による施設内（出入口、トイレ、共用部等）の定期的かつこまめな消毒の実施。

③換気の徹底



法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上・1回に5分間以上等）の徹底。

④来場者間の密集回避



入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施。



休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築。



大声を伴わない場合には、人と人とが触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離の確保

感染防止策チェックリスト

⑤ 飲食の制限

- 飲食時の感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底。
- 飲食中以外のマスク着用の推奨。
- 長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛。
- 自治体等の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討。）。

⑥ 出演者等の感染対策

- 有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常から出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する。
- 練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。
- 出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等必要な場合を除く。）。

⑦ 参加者の把握・管理等

- チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ等を活用した参加者の把握。
- 入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかった際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止。
- 時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起。